

今回は、9 月 14 日に行われた「生物ポスター発表会 (クラス毎)」についてお伝えします。

【発表】

<概要>

9 月 14 日の 6, 7 校時に、7 月 10 日～11 日の合同巡検の活動をまとめた、学術研究 I での研究の発表がクラス毎に行われました。

発表は、8 班が前半と後半の 4 班ずつに分かれ、一方は計 10 分間の発表を 4 回、もう一方がその 4 班の発表の見学をしました。それぞれの発表前には、聴衆の 3 人が「甘口・辛口カード」を引き、引いたカードに応じた質問・意見を発言することで、質疑応答の時間がより充実するようになっていました。

<発表の様子>

今回の発表では、発表時間が守れている班が多くみられ、全体的にスムーズに進行できていました。その上真面目に取り組む生徒が多く、「甘口・辛口カード」を引かなかった人でも積極的に質問している様子もあり、総じて良い雰囲気でした。

また、先生方の評価シートによると、『研究テーマの設定に工夫がみられるか・着眼点がよいか』『質問に対して明確に答えられたか』の観点の評価が比較的高く、個性的なテーマが多く、質問に対する用意ができていたことが窺えました。

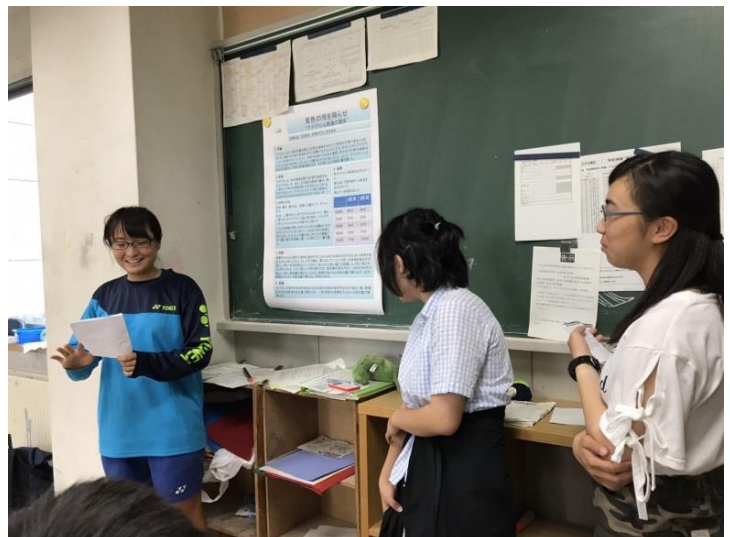
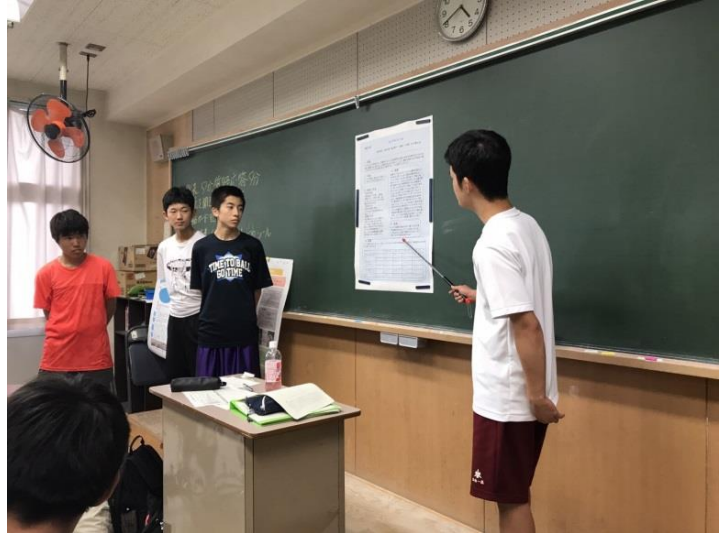
一方、『ポスターは研究内容をわかりやすく示しているか』『仮説から考察・結論までの論理展開は適切か』『実験・観察の方法は適切か』『はっきりと大きな声で、研究内容がわかるように発表できたか』については「(あまり) 適切でない」の評価が比較的多く、改善すべき点も見られたようです。

評価の高かったところはより高く、低かったところは改善点として、次回以降の発表に生かせるとよいでしょう。

【講評】

<発表について>

- 時間が守れていてよかった。
- 練習を重ねるべきだ。



- 自信を持ち、ときおり聴衆の顔を見て発表するとよい。
- 論理的な展開を意識し、聴衆に形にして要点を分かりやすく“伝える”ようにする。
- 言葉の使い方によっては真意が伝わりづらいことがあるので、適切なものを使う。

<ポスターについて>

- フォントをゴシック体にすると見やすい。
- 使っている専門用語の意味を理解しているか疑問。
- タイトルは、研究内容を具体的にわかりやすく示すもので、遊び心は不要である。
- タイトルの文字は大きくし、色のコントラストをつける。また、材料と方法に写真や簡単なイラストを挿入する。そのようにすることで、興味を引く分かりやすいポスターになる。
- 英語の要旨に、翻訳サイトを使ったような違和感があった。
- 文章の内容を取捨選択し、その上でグラフや図を大きくしたり、細かい情報は口頭で話すようにする。
- 実験の方法は、他人が同じ実験を行えるくらいまで詳しく書く。
- 考察から結論にまとまりがなかったり、筋が通っていなかったりして、どれが答えかわからないものがあった。
- 結果をできる限り数値化してグラフや表に表し、客観性を大切にする。
- 各項目の文字は囲まなくてもよい。囲まなければ、その分だけ文量を増やしたり、図表を大きくすることができる。



【編集後記】

今回は、自分たちが行った研究についてのポスター発表を行いました。その研究内容を短い時間でわかりやすく伝える方法や、聴衆の質問への返答の仕方などで、苦労した人も多いのではないのでしょうか。しかし、その苦労から得られるものは大きかったことでしょう。

これからの学術研究では『浅虫海岸の生物』という限定された範囲での研究ではなく、自分たちで選択したゼミに沿った、自由度の高い研究を進めていき、後々今回のように発表することになります。ただ、自由度が高い分、テーマ設定の範囲が広がり、研究の難易度が高くなってきます。今回の生物実習の経験や先輩の軌跡などを参考にして、今後の研究に役立てましょう。